【004】大正時代の社会運動に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1　女性には選挙権・被選挙権がなく、政治結社への加入や政治集会への参加も禁止され、家では財産管理の主体となれないなど女性の社会的地位が低かったが、このことを問題とした平塚らいてう・市川房枝らは新婦人協会を設立し、政治結社に加入する権利を獲得した。
2「四民平等」とされた社会にあっても、被差別部落の人々は職業選択や居住地移転・教育の機会均等などが保障されず、多くの差別に苦しみ続けたが、自らの力で解放に向けて「全国水平社」を結成し、人間の平等をうたった。
3　鈴木文治らが結成した友愛会は、やがて全国的な組織となり、1919年には大日本労働総同盟友愛会と改称し、8時間労働制・治安維持法の改正・労働組合の公認・普通選挙の実施などの要求を掲げ、1921年にはさらに日本労働総同盟と改めた。
4　恐慌によって農作物価格が暴落し、農民、特に小作人の生活が困窮したため、小作料の減免を要求する大規模な小作争議が急増していくなか、1922年には杉山元治郎・賀川豊彦らによって小作人組合が結成され、小作人の地位向上を目標とした運動が進められた。
5　大逆事件の後、「冬の時代」にあった社会主義者らが活動を再開し、さまざまな社会運動の中から出てきた新しい社会主義者とともに、日本社会主義同盟を結成した。また、無政府主義の大杉栄は、共産主義の山川均とともに革命運動を開始した。

【005】大正時代に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1　大正時代のはじめ、第1次護憲運動により藩閥内閣が倒れ、代わって原敬を首相とする初の本格的な政党内閣が誕生した。原内閣は国民から歓迎され、交通や教育の拡充などの政策を積極的に推進したが、米騒動によって退陣に追い込まれた。
2　大正時代末期の第2次護憲運動の結果、護憲三派による加藤高明内閣が成立し、その後しばらく政党政治が続くことになった。加藤内閣は協調外交を展開し、男子普通選挙を実現させたが、一方で治安維持法を制定して社会運動の取締りを強化した。
3　日本経済は第一次世界大戦が始まると空前の好景気を迎え、鉄鋼や造船などの重工業が飛躍的に発展して、重工業製品が輸出品の主流となった。戦後も景気は安定的に推移し、大正時代を通して好景気が持続した。
4　第一次世界大戦後、ロシア革命の影響もあって労働運動や農民運動が盛んになった。これらの運動は社会主義運動に集約され、日本共産党が結成されるなどしたが、大逆事件がおきて政府の弾圧が強まり、運動は消滅した。
5　大正時代には新聞やラジオが一般家庭にまで普及し、大衆文化が発展した。文壇では、人間社会の現実の姿をありのままに写し出そうとする自然主義が登場し、島崎藤村や樋口一葉らが活躍した。

【004】　2

1　政治結社への加入は認められなかった。
3　治安維持法X→治安警察法〇。
4　杉山元治郎・賀川豊彦らが結成したのは日本農民組合。
5　大杉栄は山川均と対立していたので、ともに運動を開始したというのは誤り。

【005】　2

1　第 1 次護憲運動で第 3 次桂太郎内閣が倒れ、第 1 次山本権兵衛内閣が成立した。米騒動によって退陣に追い込まれたのは、寺内正毅内閣である。
3　この時代は繊維産業など軽工業が主流であった。戦後は恐慌となった。
4　日本共産党の結成は 1922 年のことで、大逆事件で幸徳秋水らが処刑されたのは 1911 年のことである。
5　ラジオが普及したのは昭和時代で、島崎藤村や樋口一葉が活躍したのは明治時代。